

自分らしさ

岐阜市立厚見中学校 3年

平光 穂乃佳

人は自分でも気づかないうちに、たくさんの役割を演じ、多くの「らしさ」を持ち合わせています。「社会的ならしさ」を学んでいく中で、「自分らしさ」を保つことは本当に難しいことです。例えば、学校生活でも「中学生らしい身だしなみに整える」「校則を守り、自分らしい目標をもつ」「責任感のある生活を送る」など、中学生になってから急に大人扱いされるようになりました。

小学生の頃の私は、ポジティブでとても明るく、積極的で、児童会長も務め、人よりいわば目立つ存在でした。その頃の私は、中学生になっても何も変わらずそのままの自分でいられるのだと何の疑いもありませんでした。

ところが、中学生になると、少しずつ自分の内面的な変化がありました。授業中あんなに発言していたのに、周りを意識して発言ができません。大きな声で話せていたのに、自分でもなぜかわかりませんが、小さな声しか出ません。私は自分が自分でなくなっていく感覚がして、とても不安になりました。控えめのあまり受け身で、自分の意見を共有するのが得意ではなくなっていたのです。家での自分と学校での自分は、もはや別人で、自分が2人いるような感覚で、違和感があり、戸惑いを覚えました。「本当の自分とは何だろう」「早く元の自分に戻らないと」と焦りも芽生えました。

そんな中、ある出来事がありました。2年生の授業参観、そこでの私の姿を見た母が、家に帰ってこう言いました。「どうしたの、大丈夫？暗すぎてびびりしたんやけど、何かあったの？」モヤモヤしていた部分を核心付いたような母の言葉に、今の自分は心配されるくらい違うの？そんなにおかしいの？不安、恥ずかしさ、怒り…。いろんな気持ちが混ざって、私は咄嗟に「そんなん仕方ないやん。どっちも私なんやもん。」と気持ちを爆発させてしまいました。けれど、無意識に出した自分の言葉で私はハッとしました。「明るく元気な私も、静かで控えめな私も全部含めて自分なんだ」「学校と家での自分は同じでなくてもいいんだ」と。

学校では常に、中学生らしくいられているか？協調性を高められているか？と考えて自分を出世なくなっていました。そうではなく、今まで知らなかった自分、新しい自分に出会ったのだと気づくことができました。

家族の前で見せる自分も、学校の中で見せる自分も、先生と話している自分も、それぞれの場面で「自分らしさ」があり、どれも本当の自分だからこそ、大切なのは常に同じ自分であることではなく、どの場面でも「社会的ならしさ」の中に「自分らしさ」を表現することなんだと思います。私って、優しい一面もあれば、厳しい一面もあり、ユーモアな面もあれば、真面目な面もあります。いろんな自分がいていいのです。いろんな自分がいて、一人の自分として存在することができるのです。いつも同じ自分がいなければいけないわけではない。私は、いろんな自分と出会えたから、今まで理解できなかった控えめなあの子の気持ちもわかるようになりました。自分の考えの変化をきっかけに、多方面に考えることができるようになったんだと思います。そして、相手のことを理解することができ、自然と寄り添えることにもつながりました。

「自分らしく」生きるって難しい。でも「社会的ならしさ」と「個人的ならしさ」が重なり合ったとき、自分の本当の「らしさ」が生まれるのだと思います。

私は伝えたいです。誰もが社会の中で自分らしく生きられるように、まずは自分と向き合い、新しい自分らしさを見つけ、自分を受け入れることから始めてみませんか。